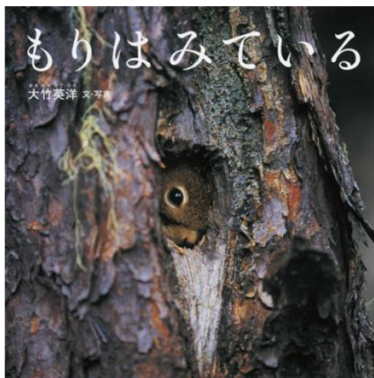


児童福祉文化賞（出版物部門） 受賞及び推薦作品



「もりはみている」★児童福祉文化賞受賞作品
文・写真：大竹英洋

株式会社福音館書店
対象年齢：幼児以上

静かな森の中。松の木の巣穴の奥からアカリスが見ている。ヤマナラシの木の上からは子グマのきょうだいが見ている。北米ノースウッズをフィールドに、自然やそこにすむ生き物を撮り続けている写真家・大竹英洋が、そこで出会った野生動物のまなざしをとらえた写真絵本。動物たちの目線は、森の中に一気に引き込んでくれるような力があります。動物たちの息づかいや葉擦れの音まで聞こえてきそうな森の世界を味わえる作品。



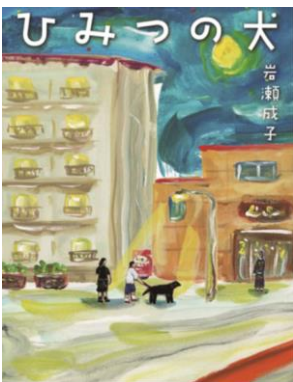
「カメラにうつらなかった真実 3人の写真家が見た日系人収容所」
株式会社徳間書店 文：エリザベス・パートリッジ 絵：ローレン・タマキ
訳：松波佐知子 対象年齢：中学生以上

第二次世界大戦下、アメリカ合衆国の西海岸に住む日本人と日系二世は、突如、強制収容所に送られることとなった。三人の写真家ードロシア・ラング、宮武東洋、アンセル・アダムスーは、有刺鉄線と武装した警備員に囲まれた収容所での厳しい生活の様子や、くじけずに生きる人々の姿を撮影した。三人三様の写真を紹介しながら、その背後にある物語に焦点をあてた、胸に迫るノンフィクション絵本。



「アマゾン川 熱帯雨林・生命の源」
株式会社徳間書店
文：サングマ・フランシス 訳：ゆらしょうこ 絵：ロモロ・ディポリト
対象年齢：小学校高学年以上

世界最大の流域面積を誇るアマゾン川。世界でも屈指の生物多様性で知られ、ピンクイルカやマナティーなど、地球上この地域でしか見られない生物も数多く生息する。ヒョウやナマケモノ、カピバラなどの哺乳類や、ボアコンストリクター、毒ガエル、サラマンダーなどの両生類・爬虫類、ピラニア、電気ウナギなどの魚類…と、生物の話題から、アマゾンに暮らす人々や、古くからある文明の話題、自然保護まで、あらゆる方面からその魅力にせまる！



「ひみつの犬」
著：岩瀬成子 装画・挿画：ヒラノトシユキ
株式会社岩崎書店 対象年齢：小学校高学年

小学5年生の羽美は、黒が好きで、服も持ち物も黒。同じマンションに引っ越してきた細田くんの相談にのるうちに、まわりで起きた事件が気になり、その真相をつきとめるべく、犯人さがしにのめりこんでゆく。パトカー、誘拐、空き巣、カエンビン、へんな手紙……複雑に謎がからみあう。とりまく大人たちの間でさまざまな問題にぶつかる、羽美、細田くんとトミオ。ゆれる心境をこまやかに描く。



「やさいのはな なんのはな？」
構成・文：宮崎祥子 写真：網野文絵
株式会社岩崎書店 対象年齢：幼児、小学校低学年

お星さまみたいな黄色い花。ラッパみたいな花。みんな野菜の花だよ、なんの花かわかるかな？いつも食べている野菜は、どの「部分」を食べているのかな？科学の目でみると、不思議がいっぱい！知る楽しさに出会える、クイズ形式の認識えほん。



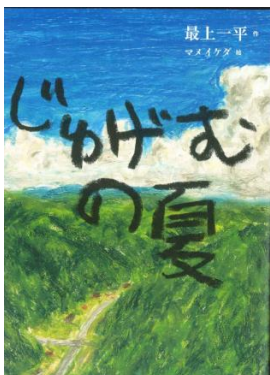
「チャンス はてしない戦争をのがれて」
作：ユリ・シュルヴィッツ 訳：原田勝
株式会社小学館 対象年齢：小学校高学年以上

『よあけ』、『ゆき』、『おとうさんのちず』などで知られ、コルデコット賞を受賞した絵本作家、ユリ・シュルヴィッツ。ポーランド生まれのユダヤ人である彼は、4歳の時に第二次世界大戦の開戦を目の当たりにします。本書では、家族と逃げのびた日々の記憶を豊富な絵と文でつづります。タイトルの「チャンス」には「偶然」という意味があります。いつ命を落としてもおかしくなかった彼の戦争体験を垣間見ることができる作品。



「LGBT だけじゃない！わたしの性（全4巻）」・ジェンダー・アイデンティティ・からだの性・好きのありかた・性役割／性別表現
国土社 監修：佐々木掌子・長谷川奉延 対象年齢：小学校高学年以上、保護者・指導者等、一般(啓発)

思春期の読者が自分と他人の性を大切にしていけるよう、さまざまな性のありかたを正しく知り、考えることのできるシリーズ。手にとるのが恥ずかしくない大きさやデザイン、柔らかなイラストとマンガを通して、性の悩みや疑問に具体的に寄り添っていく。最新のジェンダーなどに関する知見をベースに、思春期特有の戸惑いや他者との関係を受け入れるための一助となることを目指している。



「じゅげむの夏」
作：最上一平 絵：マメイケダ 装丁：中嶋香織
株式会社佼成出版社 対象年齢：小学校中学年

山ちゃん、シューちゃん、かつちゃん、ぼくの仲よし4人組は、天神集落で同じ小学校に通う4年生。かつちゃんは筋ジストロフィーという病気だけれど、ぼくらにとって、特別な存在ではない。親友のひとりだ。迎えた夏休み。ぼくらは「夏を冒険する」ことに決めて、何をするか相談したのだけれど……。死という確かで曖昧なものを共有しながら、めいっばいいのちを謳歌する少年たちの夏の日をみずみずしく描いたさわやかな作品。



「手で見るぼくの世界は」
作：樫崎茜 画：酒井以
株式会社くもん出版 対象年齢：中学生

主人公の双葉は「目が見えない人は一人で外を歩くべきじゃない」と思う人がこの世界にいることを知り、外出できなくなってしまう。しかし、「伴歩・伴走クラブ」という団体を知り、見学をきっかけに少しずつ外の世界に出ていくようになる。もう一人の主人公、視覚支援学校に通う中学1年生の佑は、双葉に会いに行くために、苦手だった白杖の練習をはじめていく。それぞれの葛藤を乗り越え、再び世界に踏み出すまでを描いた物語。